

## 秀石 真一プロのコース攻略

### No.1

スターティングホールらしくフェアウェイは広いロングホール。ティーショットは打ち下ろしているが、セカンド以降はしっかり打ち上げているのでやや大きめのクラブを選びたい。グリーンは左奥が下っているので、花道からセンター狙いが安全である。

### No.2

比較的距離の短い打ち下ろしのミドルホール。ティーショットは左の張り出した松に注意して正面の鉄塔狙い。グリーンは右手前や左奥にボールがこぼれ易く、そこからの寄せは大変難しくなるので、センター狙いが安全である。

### No.3

西宮が箱庭のようなコースと言われる代表的な池越えのショートホール。軽く打ち下ろしで距離的にはないが、視界に入る重圧は相当である。左の池を避けてグリーン右横に打つのは安全だが、グリーン右の大きなマウンドが影響しており容易には寄せられない。

### No.4

最も距離の短いミドルホール。ティーショットは正面のバンカーに入らないクラブを選びたい。セカンドは打ち上げのライとなり、引っかけやすいのでグリーン左サイドの OB が浅いので注意。このグリーンは横幅が狭いのでセンター狙い。

### No.5

最も難易度の高いミドルホール。コース内を流れている仁川が大きく斜めに横断している。左右の OB に注意して、ティーショットは川の手前まで。セカンドはハザード越えの打ち上げとなるが、無理にすくい上げないで花道を上手く使っていきたい。グリーンは真ん中に尾根があり左右にボールが流される。奥からの下りのラインは特に速いのでタッチを合わせたい。

### No.6

遠くには千里丘陵が見渡せる真っ直ぐ打ち下ろしのミドルホール。両サイドが OB なのでティーショットの方向性は必要。狙いは正面の白的的で、ボールの落下地点がブラインドもあってヘッドアップしやすいので注意したい。グリーンオーバーは OB が浅く危険なので花道からグリーンを捉えたい。春にはコース左の桜並木が美しいホール。

#### No.7

右に大きくドッグレッグした距離のあるロングホール。グリーン横までの右の林は全て OB となるので、フェアウェイセンターからショットをつなげていきたい。グリーン中央が馬の背になっておりボールが両サイドのバンカー方向に流れやすいので、花道からセンター狙いが安全である。特に左のバンカーは深いので脱出が困難に、なるべく避けたい。

#### No.8

やや打ち上げの池越えのショートホール。唯一バンカーがないホール。砲台グリーンが高いのでボールも止まりにくい。グリーン正面奥のマウンドから張り出した尾根状のアンジュレーションがグリーンを左右に分断しており、同じ面からの寄せやパターに残したほうが打ちやすい。

#### No.9

やや右ドッグレッグの距離のあるミドルホール。右サイドは OB やクロスバンカーもあるので、ティーショットはフェアウェイセンター狙いとなる。かなり打ち上げているので、なかなか2オンは難しい。グリーン左手前のバンカーに入れないように花道から乗せていきたい。グリーン奥から手前への下りのラインは速いので注意。

#### No.10

高い松林にセパレートされたロングホール。グリーン横までの左の林は OB なので、正確にフェアウェイセンターを捉えていきたい。セカンド以降は見た目以上に打ち上げているのでやや大きめの番手で、花道から乗せていきたい。このグリーンは真ん中から二段になっており、なるべくカップと同じ段からパターしたいところ。

#### No.11

約 10 ヤードほど打ち下ろしのショートホール。右の張り出した林は OB、左にはハザードと方向性が必要。アドレスが狙った方向に立ちにくいので、特にアドレスどりには注意すること。ティーインググラウンドでは風を感じないのに、グリーン上は風が吹いていることがあるので番手選びも慎重にしたい。

#### No.12

正面の大きなモミの木が特徴的な打ち上げのミドルホール。ティーショットはモミの木の右サイドがベストポジション。セカンドはしっかり打ち上げているので、大きめの番手を選びたい。カップが左右に切ってあってもグリーンセンター狙いがボールも止まりやすく安全である。

#### No.13

打ち下ろしのミドルホール。フェアウェイが左に傾いているためボールが左によく転がるのでティーショットはフェアウェイ右サイド狙い。グリーンオーバーは OB が浅いので注意。カップが左にあっても花道狙いが安全。グリーン中央の溝のような窪みが、ロングパットのラインとタッチを複雑にしている。

#### No.14

ティーショットの精度が要求される打ち上げのミドルホール。左は OB,右はセーフだが隣のホール側に転げ落ちる。セカンドはしっかり打ち上げており、やや大きめの番手で花道からグリーンを捉えたい。グリーンは右のマウンドが高くそこから放射状に下り傾斜になっているのが特徴である。

#### No.15

距離の短いショートホール。パーオンのチャンスは十分にあるが、周りが樹木で囲まれているために風の判断が非常に難しい。右奥のガードバンカーに入ると難しい。ティーショットの番手とそれに応じたアドレス方向をきっちり決めたい。

#### No.16

距離の長いミドルホール。仁川が自然のハザードとしてコースを斜めに横断。ティーショットは川の手前に刻み、セカンドで川を越えてグリーンを狙うのだが、セカンドのほうが距離が長く残るためになかなか2オンは厳しい。左右のバンカーに入れないように花道からアプローチで寄せたい

#### No.17

グリーンまで約35ヤードの打ち上げのミドルホール。力が入ると左の松林に、ヘッドアップすると右のクロスバンカーにつかまりやすいので、ティーショットはフェアウェイセンターを狙うこと。セカンドはかなりの打ち上げなので大きめの番手で花道から乗せていきたい。ただしグリーン左横と右奥は OB が浅いので注意。グリーンを終えて振り返ったときの眺望は絶景です。

#### No.18

最終ホールに相応しい距離のある左ドッグレッグのロングホール。ティーショットはプレーヤーの飛距離に応じて狙い目は異なる。ショートカットに狙えばバーディーも獲れるが大叩きのリスクもある。正面のバンカー狙いが安全なルート。残り100ヤード以内からの打ち上げの距離感が難しい。グリーンも大きくアンジュレーションは複雑だが、上り下りの判断を間違わないこと。